

起業アドバイザー便り

当「起業アドバイザー便り」は本号で100号となります。2005（平成17）年11月を第1号としてこの便りを世に出そうと決めましたが、その時代は、かのライブドアの堀江貴文社長がマスコミやメディアが創り上げた舞台の上で自らも踊り、また逆に彼等を利用した騒動がどこまでも続く「ざわついた」時代でした。

いわゆるITベンチャーブームで、彼は時代の寵児として華々しく連日連夜に亘りマスメディアに取上げられ、大いなる“虚”と、僅かばかりの“実”をないまぜにした過剰な情報が際限なく交差した時代でした。私はこれらの状況を見て強い違和感を感じ起業する人、経営にあたる人は、そういった浮薄な情報戦に関わるのではなくむしろ何よりも自己規律をしっかり確立していくべきではないかと感じました。

そこで私は、若くして起業を志す人や、既に起業し事業継続に迷いを感じている人たちのために資する目的で、この起業アドバイザーメッセージをスタートさせ本日まで継続してまいりました。いわば私の経験を通して身につけた、事業のスタート時に直面する、思いと迷い、そして願いについて書いてきました。当面120号をめざして継続したいと思っております。

### いつの世でも有用で、他に求められる人でありたい

「諸行無常」と云われるとおり、この世の万物は常に変化して、ほんの一瞬の間もとどまるものではないと承知いたしております。

過日、ある会食の席をセッティングして「この人におめにかかりたいもの・・・」との思いで20名余りの方にメールにてその趣旨の案内を送信しました。

半数の方からの出欠の返事が送信されて来ましたが、残りの方からは何らリアクションがありませんでした。私はその方に、このような案内を受けたら、返事をすべきとのマナー上のきまりを求めるよりも以前に「人は常ならず」という厳しい事実を、改めて認識致しました。

それは、私自身年齢を重ねて来て、これまで以上に身をもって常々分かることがらが多いと感じております。個々の人の体力と気力との相関関係であったり、日常に持ちあわせる本人の意識で左右されるものだと云うことです。

「人の世で一番寂しいことは、忘れ去られること」と昔より聞き及んでおります。

この世の中で他との接触を避け、自分の時間を多く持つ人、日々忙しく時間に追われて余裕のない人も1日、1ヶ月、1年は同じ時間軸の範疇（はんちゅう）にあります。

ですから誰も自分の人生は生まれて（スタート）から死（ゴール）まで一本の糸の上を歩むことなのだと思います。そして「人生二路なく」は事実で、一本の片道以外は歩めないのです。

これらをときに痛切に感ずることがあり、それは身近に寄せられる孤独の人の悲しく寂しさの叫びです。

人は誰も根のところは孤独であり、事業経営を長年継続して来て、特に重要な決断の折には厳しい責任とリスクを自覚し、立ちくらむこともしばしばです。

しかし、経営道だけが人の人生ではありません。

どんな人にも生活、暮らしがあり、その日々をどう生きていくかは「因果応報」即ち原因があり、結果があります。要は今の自分は過去の自分がなしたことがらの処世の積み重ねの結果なのです。

識者は多くを説いています。

年齢相応に生きなさい。

捨てることの大切さを学びなさい。

長生きの秘訣は義理を欠くことです。

所詮、人間は孤独で1人で死んでいくものです等々です。

私は決してそれらの考えを否定するわけではなく、ひとつの卓抜した考え方であると理解しつつ同時に私らしくありたいと思い

日々学びの一瞬、一時を大切にしたい。

世の流れを感じて刺激的でありたい。

良き友と交流の時間を共有して生きていく意味を深く感じたい等々と思うのです。

そして、いつの世でも有用で、他に求められる人でありたいと自らに納得させ努めていこうと思っております。